

2015 年 5 月 15 日(金)

NPO 法人 琉・動・体のプレゼンをはじめさせていただきます。

新規事業として、当 NPO は「Mabuni-peace トリエンナーレ(仮称)」実施に向けた基盤整備事業を提案いたします。これは、沖縄で、平和への願いをテーマとする国際美術展を開催するため、県内外の文化芸術関連事業者などとの連携を図り組織化を目指し、マネジメント力強化に資するインキュベーター事業であります。また、これまで 3 年間に渡って支援を受け実施してきた創造拠点形成事業「沖縄クリエイターズビレッジ」を、さらに対外的に展開していくための事業でございます。

ご存知のとおり、沖縄は、豊かな自然や風土、歴史が育んだユニークな文化を持っています。とりわけ、平和を求める県民の強い心は、かけがえのない文化資源であります。この文化資源をアートと結合し、第二次世界大戦最後の激戦地となった沖縄を、世界中から多くの人々が訪れる平和の要石(キーストン)とすべく取り組みたいと考えております。

この種をまく事業として、「戦後 70 年・沖縄美術プロジェクト すでいるーREGENERATION」が現在展開されております。このプロジェクトは、実行委員会形式で、県内各地の会場をつなぎながら、制作発表、シンポジウム、上映等のアートイベントを実施するものです。

その一環として、「Mabuni-peace プロジェクト」があります。これは、戦争を二度と繰り返さないという平和への意志を、アートを媒介として次世代へ継承し、“未来を考え、行動するエネルギーを生む”というコンセプトのもとに行われます。

20 代 30 代の若い作家にも発表の機会を与え、6 月の開始に向けて準備を進めているところですが、当 NPO は、すでいる実行委員会と連携して出展作家を集め、沖縄で初めてとなるこの試みに協力しました。この過程におきまして、第一回となる本年の「Mabuni-peace プロジェクト」が、将来的には「Mabuni-peace トリエンナーレ(仮称)」にまで発展するという可能性を見出し、今後の展開としてアーティスト・イン・レジデンスを検討中でしたので、その思案とも重なり、本事業の提案に至った次第でございます。

本提案の趣旨は、沖縄を基軸に平和の創造を根幹とした国際美術展を開催する必要性について認識を高め、実現に向けて必要な人材の育成に力を注ぎます。

活動の具体的な内容は、事業計画書に示したとおりですが、まず初年度は、Mabuni-peace プロジェクトを含む『戦後 70 年・沖縄美術プロジェクト「すでいるーREGENERATION」』を支援し、その成果をまとめ、記録集として広く頒布し、理解と協力を促進します。そして、国際芸術祭開催実績のある関係者を講師に招き研修会を実施します。これらの取り組みによって「国際美術展」開催の契機を創出します。

今後の取り組みとしては、国際交流基金などのスカラシップを利用して、アーティスト、マネージャー、キュレーター等を在外研修に派遣するための支援を行います。この他アーティスト啓発事業として、アーティスト・イン・レジデンスの実施、地域交流事業等を支援していきます。

「Mabuni-peace トリエンナーレ(仮称)」は、東京オリンピック開催の 2020 年に照準を合わせて取り組まれるべき事業と位置付けています。それまでに、コンソーシアム体制を築き、「国際美術展」開催後も文化的活動が継続的に実施できるよう動いていきます。

私どもとしては、2015 年、16 年、17 年の 3 年間、Mabuni-peace プロジェクトを発展的に継続しながら、理解と協力を促進し、基盤整備を進めていきたいと考えております。

来年 2016 年には「世界のウチナーンチュ大会」が開催されることから、移民先の県系作家との交流事業を盛り込んだ Mabuni-peace プロジェクトを展開することも視野に入れております。

掲げる目的と実施する内容一つ一つの実現には、多くのエージェント(県内外含めた)を巻き込むことが必要不可欠です。現状、私どものような小さな法人の体力では限界がありますが、その確立に向け「沖縄クリエイターズビレッジ」事業での経験を活かしつつ、ビジョンを提供する役割を果たす所存です。